



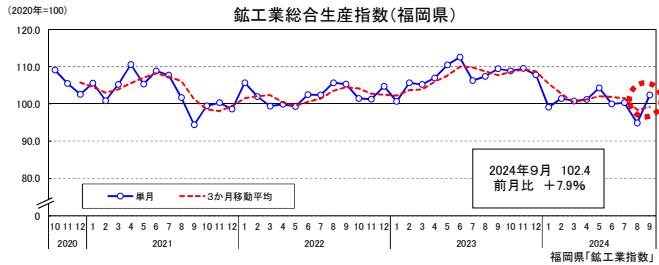
ふくおかの経済

令和6年11月号

生産

持ち直しの動きがみられる。

9月の生産指数は、輸送機械工業、ゴム製品工業などが上昇したため、2か月ぶりに前月を上回りました。

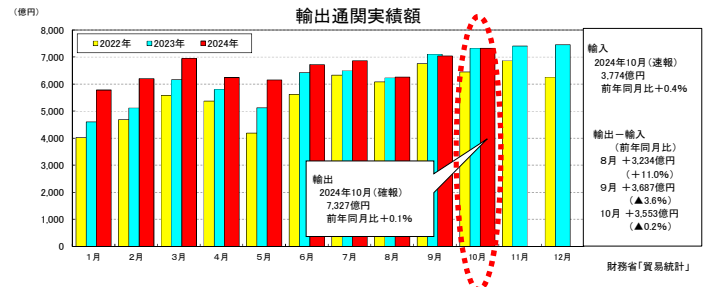


鉱工業生産指数は、2020年10月を基準として、その変化を示しています。

貿易

輸出額、輸入額ともに、前年同月を上回っている。

10月の輸出額は、前年同月比+0.1%、輸入額は同+0.4%と前年同月を上回りました。

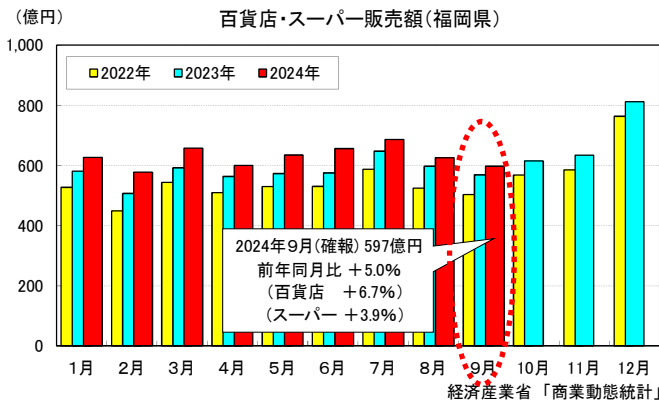


財務省「貿易統計」

消費

緩やかに回復している。

9月の百貨店・スーパー販売額は、36か月連続で前年同月を上回りました。

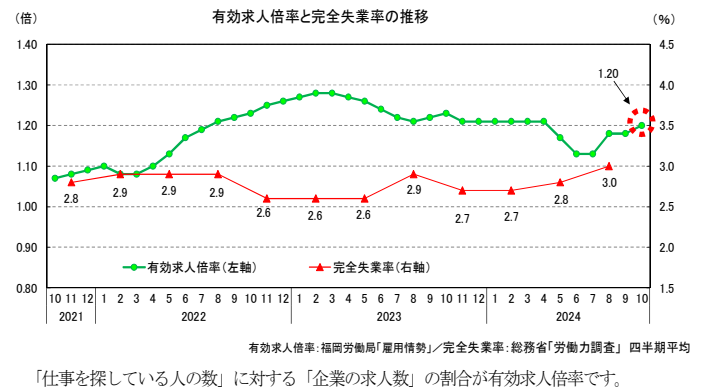


経済産業省「商業動態統計」

雇用

雇用情勢は、改善している。

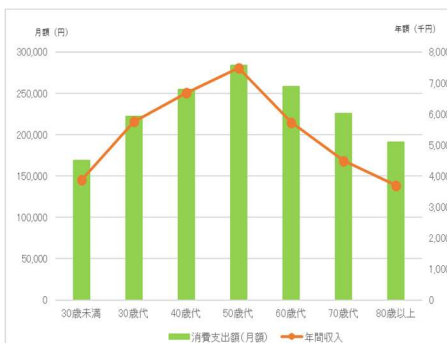
10月の有効求人倍率は1.20倍で、前月を0.02ポイント上回りました。



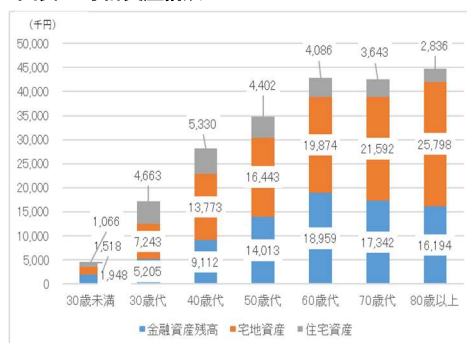
今月のトピック 高齢者の消費

- 1か月あたりの消費支出額を世帯主の年齢階級別にみると、消費支出額は50歳代でピークとなり、その後に減少に転じています(図表1)。また、家計の金融資産残高は、60歳代をピークに70歳代・80歳代においてもそれほど減っていません(図表2)。高齢世帯では貯めてきた老後資産が消費に向かわずに保有されており、将来の生活に対する不安が消費を抑制しているといえます。
- 65歳以上世帯のうち、無職世帯では収入(年金)だけでは生活が維持できないため、保有する土地や住宅などの資産を活用することにより不足する生活費を補うことができれば、これまで以上に金融資産の一部が消費に回ると考えられます。また、勤労者世帯では消費支出額が無職世帯より多いことから、就業により可処分所得が増加すればその分、消費に積極的になると考えられます(図表3)。
- 高齢化が進展する中、消費活動における高齢者層の影響力は高まっています。資産活用の促進や希望する高齢者の労働参加が実現できる環境の整備などに取り組み、高齢者がより積極的に経済活動に参加できるような仕組みの構築が求められます。

図表1 消費支出月額及び年間収入額



図表2 家計資産構成



図表3 可処分所得と消費支出

